

## 世界史 B シラバス

教材	単位数	対象学年・クラス
教科書：高校世界史B 改訂版（山川出版社） 資料集：プロムナード世界史（浜島書店） ワークシート	2単位 ※2年次からの継続履修	3学年 普通科 3年1組・2組・3組

### 1, 指導目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

その上で、自らの置かれた歴史的状況について、自分なりの言葉で語ろうとする態度を涵養する。

### 2, 評価の観点及び評価方法

	a) 知識・技能	b) 思考・判断・表現	c) 学びに向かう態度
定期考査・臨時考査	40	20	
研究物・レポート・宿題 制作物・実技	10	10	10
学習態度・出席状況			10

### 3, 授業の展開と形態

3年生の1～3組の生徒必修。各クラス単独で行う。2年次よりの継続履修だが、現代史から遡って学習する。

### 4, 学習方法

#### (1) 授業における学習

予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。

教師の発問に対して積極的に発言・質問する姿勢や、自分なりの問題意識をもって臨むと、より深い理解につながる。

授業のワークシートは、空欄の残らないように周囲と協力しながら毎時間取り組む。教員の説明について、余白等に残しておく姿勢があるとなおよい。

#### (2) 定期考査に向けての学習

定期考査前の学習は、ただ言葉を覚えるだけでなく、それが意味するものを自分で説明できるように意識したい。

同じ時代の違う地域、同じ地域の異なる時代、などを自分で結びつけて理解を深めたい。

新しい知識が多く出てくるので、考査前にまとめて勉強しようとする大きな負担となる。毎授業後に振り返りをするなどして、必要な知識を定着させるように努力したい。

### 5, 履修上の留意点

#### (1) 履修・修得における注意点

欠課数が年間授業時数の3分の1を超える場合には、履修が認められないので注意すること。ただし、欠課に正当な理由がある場合には、内規に従って補充を行うこともある。

1学期・2学期の評価は100点法で、学年末の評定は5段階で、それぞれ行う。1・2学期の35点未満は単位保留懸念科目となる。学年末で2に満たない場合は、単位保留科目となる。

#### (2) 授業における注意点

教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。なお、授業で配布するワークシートを整理するために各自でファイルを準備すること。

私語や居眠り等、怠惰な態度で授業に参加する生徒については、その都度指導する。

提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。ワークシート同様、成績に加える。

6, 年間計画

月	時	単元	学習目標	評価
4	1	オリエンテーション・前学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方や評価について確認する。</li> <li>・3月の休校期間の影響を受けた中世ヨーロッパについての確認を通して、3学年の世界史学習に向けた心構えを持つ。</li> </ul>	a) c)
4 5 6	12	第IV部 第14章 二つの世界大戦 1 第1次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第2次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策でも比喩として用いられる「総力戦」なる言葉について、国家が市民生活のすべての領域にまで支配を及ぼすという第1次世界大戦の様相に即して理解する。</li> <li>・戦間期の国際的な秩序維持の努力を確認し、それが結果としてなぜ次の世界大戦を防げなかったかについて考察する。</li> <li>・欧米主導の国際秩序に対して独自の存在感を示した蒋介石、ガンディー、ムスタファ・ケマルについて、その業績を確認し、その時代の日本と比較して考察する。</li> <li>・「ファシズム」の意味するものについて、特にドイツと日本を比較して考察する。</li> <li>・未曾有の犠牲者を出した日中戦争～第2次世界大戦について、その原因・過程・結果を確認し、それが現在の世界に持つ意味について考察する。その際、映像資料などを視聴し、自らに関わりのある事象であることを意識しながら学習する。</li> </ul>	a) b) c)
6	10	第IV部 第16章 現在の世界 第15章 冷戦と第三世界の独立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次世界大戦以降、現在にいたるまでの世界の歩みについて、提示されたテーマの内から興味のあるものを選んでまとめ、互いに発表し評価し合う。その際、歴史的な事象が現在、自らの生きている世界とどのように関わっているのかという点を意識しつつ、他者に伝わる発表を工夫する。</li> </ul>	a) b) c)
6 7	5	第IV部 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米列強の世界支配の深化について、政治的・経済的・文化的側面から考察する。</li> <li>・列強とアジア・アフリカ地域との関係を、後者の主体性に特に注目しつつ確認し、理解を深める。</li> </ul>	a) b) c)
7 8	6	第III部 第12章 アジア諸地域の動揺 1 西アジアの変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつては先進的な文明を享受していたイスラーム世界や南アジア・東アジアが、「西洋の衝撃」に晒されて苦境に陥る課程を理解し、その原因について多面的に考察する。</li> <li>・日本の近代世界への関わりについて、琉球（沖縄）の帰属問題も意識しながら考察する。</li> </ul>	a) b) c)
9	6	第III部 第11章 欧米における近代国家の発展 1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編 3 南北アメリカの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民衆の主張が政治を左右する時代への以降について、各国の事情を確認しながら理解を深める。</li> <li>・特に1860～1870年代のアメリカ南北戦争、イタリア・ドイツの国家統一について、日本の明治維新との関係を意識しながら考察する。</li> </ul>	a) b) c)

		4 19世紀欧米の文化	・この時期の文化的達成について確認する。	
月	時	単元	学習目標	評価
9 10	5	第Ⅲ部 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	・Industry4.0とも呼ばれる現在の急激な経済環境の変化を念頭に置きつつ、「産業革命」のもった意義について考察する。 ・大西洋革命とも総称されるアメリカとフランスの2つの政治的変革がもった意義や共通性・異質性について、自分なりの視点から考察する。	a) b) c)
10	5	第Ⅲ部 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	・ヨーロッパの強国における集権体制形成の過程を確認し、それが新世界を始めとする世界全体にどのような影響を与えたかについて政治面・経済面から考察する。 ・同時代の文化的達成について理解する。	a) b) c)
11 12	12	第Ⅲ部 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 ヨーロッパ主権国家体制の形成	・大航海時代・ルネサンス・宗教改革という、現在にもつながる大きなヨーロッパ世界の変動について、その基本的な性格を理解する。 ・現代世界の基盤となる主権国家の成立にとって三十年戦争がもった意味について考察し、理解を深める。	a) b) c)
1 2	8	第Ⅲ部 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 インド・東南アジア世界の展開	・明・清という連続性と断絶性のある両帝国の性格を、特徴的な皇帝の事績などに代表させて理解する。同時代の文化的達成についても確認する。 ・イスラーム世界にほぼ同時代に隆盛を誇ったオスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国の支配の様相について、その文化的達成とともに理解する。	a) b) c)